

～市町村支援に関わる方の自己点検と研修・計画づくりの参考として～

# 伴走支援に必要な力 (エレメント)

## 伴走支援とは



- ・ 地域づくりや介護予防などの取組を進める中で、市町村には多様で複雑な課題への対応が求められています。
- ・ しかし、課題の整理や関係者との調整、取組の推進など、通常業務をこなしながら、前に進めることは容易なことではありません。
- ・ こうしたときに求められるのが、有識者等の介入による「伴走支援」です。市町村に寄り添いながら、課題解決に向け、ともに取組を進めていく「伴走支援」は、市町村の状況に応じて関わり方を調整しながら、関係者との対話や調整を支え、市町村自身の力を引き出していきます。
- ・ 伴走支援は、支援チーム内で役割分担をしながら、様々な知識・スキル・経験を組み合わせることが重要です。特定の個人がすべてをカバーしている必要はなく、各々が自身の強み・弱みを把握したうえで連携していくことが求められます。

## 伴走支援に必要な力(エレメント)とは



- ・ 伴走支援に必要な力(要素・条件)をエレメントと言います。
- ・ 伴走支援を進めるうえで求められることを整理し、実践していくうえで身につける力を具体化したものです(詳細は次頁以降)。

## リーフレットの活用方法

- ・ 本紙では、伴走支援を担う中核推進役・調整役が機能するためのチェックポイントを整理した一覧を掲載しています。
- ・ セルフチェックや、伴走支援を推進する支援チーム内でのスキル確認・補間等にご活用ください。
- ・ 後方支援を行う中核推進役だけでなく、都道府県職員等も伴走支援のポイントを理解したうえで支援者として関与する必要があります。
- ・ その際の参照として、あるいは支援チームを形成していく際の参考材料としてもご覧ください。

## 伴走支援に必要な力

## 3つの力と9つのエレメント(要素)

- ・ 伴走支援を進めていくためには、特定の一人の能力だけでなく、状況に応じて様々な知識・スキル・姿勢が組み合わせられることが重要です。
- ・ 伴走支援が市町村に効果的に作用するよう、支援者に求められる力（要素・条件等）を **A基礎知識・基礎スキル**、**B中核推進役／調整役が特に備えるべき力**、**Cチーム全体で備えるべき力** に整理しました。
- ・ さらに、A～Cを【1. 人に働きかける力】【2. 活動を適切に進める力】【3. 解決方向に向かう力】の3つの力に分類し、伴走支援に必要な要素を9つのエレメントとして整理しました。

	1. 人に働きかける力	2. 活動を適切に進める力	3. 解決方向に向かう力
<b>A</b> 基礎知識・基礎スキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴走支援に関する基礎理解</li> <li>・住民福祉に携わる人材としての基本マインドセット</li> <li>・自己覚知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険を取り巻く事柄の基礎理解</li> <li>・マネジメント基礎力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識：各種事例</li> <li>・知識：各種専門領域</li> </ul>
<b>B</b> 中核推進役/調整役が特に備えるべき力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係性を整え、チームを前に進める力</li> <li>・方向性を示し、人を巻き込む力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況判断力</li> <li>・伴走型プロジェクト推進力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性を引き出す力</li> </ul>
<b>C</b> チーム全体で備えるべき力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴走支援の基本姿勢</li> <li>・チームで進めるための基礎的な理解</li> <li>・実践的な対人スキル</li> <li>・協働するスキル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ活用力</li> <li>・事例判断力</li> <li>・プロジェクト推進力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決策に関わる知識・ノウハウ</li> <li>・伴走支援チームの役割理解</li> </ul>

チェックリストへ

これらのエレメントは、一人の支援者がすべて担うものではなく、役割に応じて分担され組み合わせられるものとして整理しています。

その中でも、伴走支援の中核となる推進役・調整役に特に求められる力をチェックリストで紹介します。

## 伴走支援に必要な3つの力と9つのエレメント

### 1 人に働きかける力

- 1 伴走支援の基本姿勢
- 2 関係性を整え、チームを前に進める力
- 3 方向性を示し、人を巻き込む力

### 2 活動を適切に進める力

- 4 データ活用力
- 5 事例判断力
- 6 状況判断力
- 7 伴走型プロジェクト推進力

### 3 解決方向に向かう力

- 8 解決策に関わる知識・ノウハウ
- 9 主体性を引き出す力



# 伴走支援に必要な力 確認リスト (ここでは、中核推進役/調整役の方が特に備えるべき力を紹介しています。)

以下は支援者自身の現在の状況を振り返るための確認項目です。  
『理解しているか』、『推進・実践できているか』をぜひチェックしてみましょう。



## 1 人に働きかける力 > 関係性を整え、チームを前に進める力

☑ 出来ていること	チーム力促進の要素	説明
	①チーム状況を見立てる力	チームの関係性・役割・心理状態・成果の出方を俯瞰し、「今、何が起きているか」を構造的に捉える力。形成期・混乱期・安定期などの段階も踏まえて判断する。
	②対立に介入する力	対立や摩擦を「問題」として避けるのではなく、建設的な対話や意思決定につなげるために適切に介入する力。
	③協働を再設計する力	役割不明確・分断・部分最適が起きている状況に対し、役割・期待・関係性を再調整し、協働の形をつくり直す力。
	④心理的安全性と挑戦を両立させる力	安心して意見を言える状態を保ちつつ、馴れ合いにせず、チームとして一段高い成果や挑戦に向かわせる力。



## 1 人に働きかける力 > 方向性を示し、人を巻き込む力

☑ 出来ていること	伴走支援の推進要素	説明
	①関係者への働きかけ力	関係者の関心・影響度・役割を整理し、適切に関与・連携させる力。
	②進行設計・進捗管理力	事業の目的を理解したうえで、計画立案・実行推進をするとともに、状況を見ながら進め方を柔軟に調整して目指す状態に向かっていく力。
	③不安要因の感知・対応力	想定外の事態や停滞を早期に察知し、対応策を考えられる力。
	④資源活用能力	人・時間・予算・情報など、限られた資源を最適に配分する力。
	⑤公平・一貫を保つ力	基準と姿勢が一貫していることで、信頼を得ながら推進していく力。



## 2 活動を適切に進める力 > 状況判断力

☑ 出来ていること	伴走支援の推進要素	説明
	①見立てを共有化する力	個々の支援者が感じた違和感や判断を整理し、チームで理解できる形に言葉にする力。「なぜそう判断したか」を明らかにし、判断の基準をチーム内に蓄積していく。
	②介入レベルを調整する力	事例の状況に応じて、「見守る・助言する・一緒に動く・専門性で関わる」といった関与の深さを判断し、チームの動きを調整する力。
	③多面的に捉える力 (視点の統合)	「誰の問題か」ではなく「何が起きているか」に視点を整理し、多面的な情報を統合していく力。
	④判断の安全性を担保する力	判断に迷いがある場合でも一人で抱え込まず、チームで解決していけるように働きかける力。
	⑤次の行動を決める力	見立てを具体的な行動方針に落とし込み、役割分担と次の一步を明確にする力。

## 2 活動を適切に進める力 > 伴走型プロジェクト推進力



☑ 出来ていること	リーダーの持つべき推進観点	説明
	①進め方を設計する力	支援の目的・段階・役割を整理し、何から取り組むかを明確にする力。事例ごとに進め方を組み立て直し、場当たりの対応にならないようにする。
	②優先順位を判断する力	時間・人員・専門職の関与度を見極め、どこに力をかけるかを定める力。チームの負担や緊急度を踏まえて調整する。
	③進行を調整する力 (状況マネジメント)	個人・組織・地域のアセスメントをしたうえで進み具合を確認し、停滞・過剰介入・役割の偏りを調整する力。必要に応じて方針を修正し、チームの動きを整える。
	④外部を巻き込む力 (環境調整)	関係機関・地域・専門職との連携を組み立て、支援が続く環境を整える力。
	⑤実践をノウハウに変える力	実践の振り返りを行い、個人の経験をチームの知見として蓄積する力。次の事例に活かせる形に整理する。

## 3 解決方向に向かう力 > 主体性を引き出す力



☑ 出来ていること	主体性を引き出す要素	向上すべきポイント
	①傾聴・受容姿勢	相手の話に丁寧に耳を傾け、否定せずに受け止める姿勢
	②関係性づくりの姿勢	対等な立場で、信頼関係を築こうとする姿勢
	③主体性を引き出す関わり	相手が自ら考え、動くよう働きかける姿勢
	④課題把握・構造理解	表面的な話にとどまらず、背景・構造に目を向けられる力
	⑤状況に応じた対応力	相手の温度感や立場に応じて、関わり方を調整できる力
	⑥共創的な提案・問いかけ	押しつけではなく、共に考える姿勢で働きかけられる力
	⑦言葉のわかりやすさ・丁寧さ	専門用語に頼らず、相手に伝わる表現ができる力
	⑧支援範囲の適切さ	相手の自主性や自走性を重んじる姿勢と、場面に応じた関わり方が判断できる力
	⑨フィードバック・振り返り力	相手の話や行動を、事実をもとに良い点や改善点を見つけ、関係者に共有していく力
	⑩終始一貫した支援姿勢	支援者として一貫した軸で関わる姿勢

「伴走支援」の展開においては、中核推進役／調整役が必要となります。アドバイザー等の確保・選定にあたっては、また、アドバイザーとなられた皆様におかれては、より良い支援に必要なエレメントを一つ一つ確認しながら、市町村への支援にご活用ください。

※本プロセスの進め方やスピード感には留意が必要です。あくまでも主役は市町村であることを忘れず、主体性を尊重した関わりを心がけましょう。

